

# 美術館ニユース 群馬の森

no. 184  
2021 4/1

## デミタスカップの愉しみ

2021年4月17日[土]ー6月13日[日]

会場：展示室1

休館日：月曜日（ただし5月3日は開館）、5月6日（木）

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般900（720）円、大高生450（360）円

\*（ ）内は20名以上の団体割引料金

\*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

本展ではデミタスカップ蒐集家の村上和美コレクションから精選したデミタスの逸品約380点を紹介いたします。

16世紀から17世紀にかけて東洋から西洋にもたらされた喫茶の習慣と東洋の磁器の卓越性は、その後のテーブルウェアの成立や、茶会という重要な社交の場のインテリアや装飾芸術の発展に貢献しました。オランダ東インド会社を通じて輸出された東洋の陶磁器には、江戸初期の伊万里焼や柿右衛門の磁器製品も含まれており、卓抜した色絵の技術や異国的な文様が嘆賞され、ヨーロッパ磁器のデザインに大きな影響を及ぼしました。そして東洋陶磁器に魅せられた王族や大貴族が東洋の磁器に匹敵する磁器生産の試みを後押ししていきました。

ヨーロッパのテーブルウェアの様式は19世紀に確立しますが、そのなかで異色な存在として現れたのが、濃いコーヒーを飲むための小さなコーヒーカップ、デミタス(Demitasse)でした。中産階級が台頭したヨーロッパにはコーヒー文化が浸透し、デミタスはディナーコースの最後に供されるコーヒーのために、またコーヒータイム用のセットとして広まっていったのです。

19世紀になると多様なメーカーが万国博覧会などを舞台に技術やデザインを国際間で競うようになります。デミタスは掌にのる小さなサイズならではの超絶技巧や大胆な形状が見どころとなっていきます。

19世紀の半ば以降には、日本的なモチーフや構図を発展させたジャポニスム様式が異彩を放ち、欧州の名窯がその国ならではの特徴あるデザインを提示し、さらに世紀末にはジャポニスムの影響を受けたアール・ヌーヴォー様式が発展、そして1920年代からはアール・デコ様式のデミタスが登場します。日本でヨーロッパ向けに生産したデミタスも異彩を放っています。

西洋の人々が身近なテーブルウェアを通じて受け止めたジャポニスムや、生活の場を彩ったデザインの変遷を味わいつつ、時代の感性と素晴らしい技巧を凝縮したアンティーク・デミタスの豊かな世界をお楽しみください。



スポード 《伊万里写し花卉文カップ&ソーサー》(1810年頃)



マイセン カップ&ソーサー (1860～1880年)



ミントン デザイン：クリストファー・ドレッサー 《ターコイズ地七宝繫ぎに花文カップ&ソーサー》(1871年)



シャルル・アレンフェルト 《金彩花鳥文カップ&ソーサー》(1894～1930年代)



KPMベルリン 《金彩花卉文ハ イハンドルカップ&ソーサー》(1902年)



カミーユ・ノド 《プリカジュール草花文カップ&ソーサー》(1900年頃)

【関連事業】 ※申し込みについては、美術館 HPをご覧ください。直接お問い合わせください。 ※感染症対策を講じ、少人数で距離を保って開催します。

### ■ 記念講演会 5月16日(日)

講師 岡部昌幸(当館特別館長・本展監修者)  
演題「デミタスは世界をめぐる  
ーその誕生、産業、技巧、収集、美」  
14:00-15:30 当館2F講堂  
定員70名(要申し込み・先着順・聴講無料)

### ■ ワークショップ

「大きなデミタスカップ(?)に描こう！」  
本展に合わせて制作し、その成果を美術館のホールにてお披露目します。  
定員10組(要申し込み・先着順・無料)

### ■ 学芸員による作品解説会

4月24日(土)、5月19日(水)  
各日14:00-15:00 当館2F講堂  
定員70名(申し込み不要・要観覧料)

# 「デミタスカップの愉しみ」展 ワークショップ 大きなデミタスカップ(?)に描こう!

てのひらにおさまるほど小さく、絵や装飾が魅力的なデミタスカップ。それを何倍にも拡大したカップ&ソーサーに絵をつけて、自分だけの大きなデミタスカップを作ってみませんか。できあがった作品は「デミタスカップの愉しみ」展終了まで、美術館内に展示します。

**内 容:** あらかじめ形のできているカップ(高さ30×直径35cm)、ソーサー(直径80cm)に絵の具で絵付けをします。制作期間内に持ち帰って制作することも、美術館の作業スペースを使用して(予約制)制作することもできます。詳しくは説明会でお伝えします。

**対 象:** 小学校3年生以上

**定 員:** 10組(1組4名まで)

**参加費:** 無料

**説明会:** 2021年4月17日(土) 14:00~15:00 【場所: 近代美術館】

**制作期間:** 2021年4月18日(日)~5月1日(土)

**展示期間:** 2021年5月2日(日)~6月13日(日)

**申込方法:** [受付] 2021年3月27日(土) 9:30から4月16日(金) 17:00まで

先着順(受付開始前の申込みは無効。定員になり次第締切)

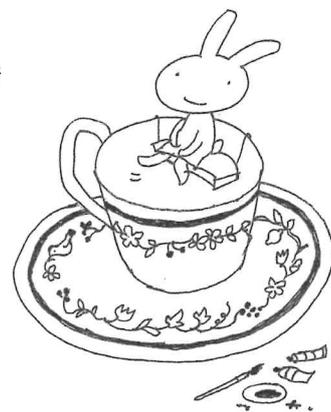
電話、Eメール、FAXのいずれかで、以下の内容をお知らせください。

- ①お名前(複数の場合は全員)
- ②年齢(複数の場合は全員)
- ③ご連絡先(電話番号/Eメールアドレス/FAX番号)  
※電話の受付は、火曜日~日曜日の9:30~17:00となります。

**申込み・お問い合わせ: 教育普及係**

TEL 027-346-5560 FAX 027-346-4064

E-mail: [bijutsu@pref.gunma.lg.jp](mailto:bijutsu@pref.gunma.lg.jp)



## C o l u m n

### 日本磁器への憧れ 松下由里

ヨーロッパでは近世にイスラムの錫釉陶器がマヨルカ島を中継してイタリア半島に根付き、ルネサンス期に白い釉薬の上に青や黄色の鮮やかで洗練された絵付けを行った軟質陶器として諸国に広まった。これはアルプス以北では「ファイアンス」と称され、16世紀の大航海時代を経て中国磁器が伝わるまで最も洗練されたやきものだった。以後、ヨーロッパは中国磁器に魅せられて磁器製造に取り組むが、実はそこに日本製磁器が大きく関わっているのである。

17世紀より青花や色絵の装飾豊かな高価な中国磁器が欧州諸国に輸入されると、硬く、薄く、そして装飾の映える白地の東洋磁器は、次元の異なる魅力的存在としてヨーロッパの王侯貴族の垂涎の的となった。明末清初の混乱期に海禁政策がとられると、それに代わって流通した華やかな伊万里様式や、赤、青、緑の色絵を実現した柿右衛門様式の日本製磁器が人気を博すこととなった。

ヨーロッパでは磁器を自国でも作ろうとする研究は国益を賭するような競争に発展していった。遂に1709年にドレスデンで磁器製法が解明されると、秘伝はたちまちベルリンやウィーンなど各地に伝わる。そして宮廷直轄の窯を中心に18世紀中頃から色彩豊かな磁器製品が流通し始める。これらの初期の窯の多くは、明の磁器や日本の伊万里様式や柿右衛門様式の模倣から出発しているのである。その後もジャポニスムに代表されるように、東洋の磁器が伝えたエキゾチシズムへの憧れは、陶磁器に底流として根付いていったのである。「デミタスカップの愉しみ」展ではこの点にも是非注目いただきたい。

コレクション展示

[展示室 2・6]

■日本と西洋の近代美術 I  
4/17～6/13

当館の収蔵品より、印象派から20世紀前半の西洋近代絵画ならびに彫刻、群馬ゆかりの作家や明治から昭和を代表する作家たちによる日本近代洋画を展示します。

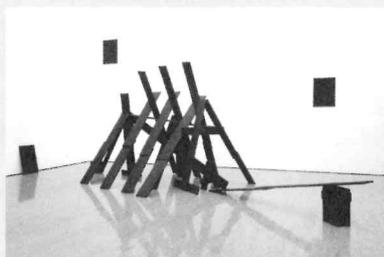


ピエール=オーギュスト・ルノワール  
《読書する二人》

[展示室 3]

■現代の美術 I  
4/17～6/13

多彩な表現による20世紀後半以降の美術を紹介します。



斎藤義重《複合体501》

[展示室 4]

■シャガールの版画  
4/17～5/16

■ムンクの版画  
5/18～6/13



マルク・シャガール  
『寓話』より《カラスとキツネ》

[展示室 5]

■陽のゆらめきと風のながれを感じて  
4/17～6/13

昨年度新たに収蔵した秋岡美帆(1952-2018)の2作品を中心に、陽の光や風を感じさせてくれる作品を特集します。



秋岡美帆《光の間 02-5-14-4》  
令和2年度 秋岡ソノ氏寄贈

[展示室 7]  
山種記念館

■四季のうつろい  
4/17～5/16

■中国の書画  
5/18～6/13

当館の設立に尽力した高崎市の実業家・井上房一郎氏より寄贈された「戸方庵井上コレクション」の名品を中心に、一期は四季をテーマにした日本の絵画を、二期は中国、朝鮮の書画をご紹介します。



伝石川豊信  
《桜花三美人図》  
戸方庵井上コレクション

現在、友の会では令和3年度の会員を募集しています。

友の会は、会費や館内ショップの利益を活用し、近代美術館を支援している団体です。会員には県内5つの美術館の観覧料が減免になるなど、様々な特典があります。是非この機会にご入会ください。

■会員の種類と年会費 [有効期間は 4/1～翌年 3/31]

一般会員 2,000 円 / 学生会員 1,000 円

家族会員 [同居 2 人分] 3,000 円 [3 人以上は 1 人につき 1,000 円追加]

個人賛助会員 [一口] 10,000 円 / 法人賛助会員 [一口] 20,000 円

■観覧料が減免となる美術館

群馬県立近代美術館・群馬県立館林美術館 [両館あわせて年間 2 回無料、ほか半額]

高崎市美術館・高崎市タワー美術館・高崎市山田かまち美術館 [団体割引相当額]

■主な事業

\* 展覧会・教育普及事業・広報への支援・協力のほか、コンサートや講演会等を開催。

\* 会報の発行、ミュージアム・ツアーなど、会員のための事業を実施。

(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため変更になる場合があります)

お問い合わせ: 群馬県立近代美術館 友の会 TEL 027-346-5560 (代表) / FAX 027-346-4064

友の会だより



## 作品ひとつ

太田佳鈴

**絵** 金箔地に、卯月(旧暦四月)に咲くことから卯の花とも呼ばれる初夏の花、ウツギが描かれる。本図は残念ながら剥落が酷く、花の胡粉は落ち、葉や枝には補筆がある。ただ、元の筆線を辿れば、枝は伸びやかで、向かい合う対生の葉は鋸歯(葉縁のギザギザ)まで細かく、枝葉の重なりは強弱をつけて描かれており、十分な作家の技量が伺える。

主要モチーフにウツギを描いた作品はほとんどなく、さらに屏風という大画面は珍しい。ちなみに、俵屋宗達とその工房の作品には料紙装飾の扇面や色紙、短冊等にウツギが描かれる。俵屋宗達は桃山時代末期から江戸時代初期に活躍した絵師で京都で俵屋という絵屋(扇屋)を営み、その装飾的な画風が人気であった。

ウツギの鋸歯の描写は、慶長 11(1606)年前後に宗達または工房が制作したとされる《四季草花下絵古今集和歌色紙(秋草図屏風)》(個人蔵)や《四季草花下絵新古今集和歌色紙》(ベルリン国立アジア美術館蔵)に近い。また他の草花図、しだれる枝茎のヤマブキやハギ、ススキ、そして房状の花と対生の葉をもつフジの表現とも、文様風ではない素直な形態描写や風に翻らない強い正面性、金地に白、緑という色彩感覚といった点で通じる。料紙装飾は俵屋の制作の中心であり、《楨檜図屏風》(石川県立美術館蔵)や《葛の細道図屏風》(相国寺承天閣美術館蔵)のように色紙等に描かれたモチーフの大画面への展開も考えられよう。

画面左上には『新古今和歌集』の白河院の歌「卯華のむらむら咲るかきねをば雲間の月の影かとぞ見る」があり、黒文方印から「寛永の三筆」の一人、本阿弥光悦によるものとされる。宗達の料紙装飾に光悦が和歌を書いた作品は多く、本図も同じ趣を志向したものだろうが、歌の周囲だけ一回り大きい金箔であることが指摘されている。料紙装飾との関わりも含め、引き続き画風、書風の丁寧な考察が必要である。文学的要素が盛りこまれた絵画を読み解く知的な遊びは、文化人に求められた教養であり、雅な愉しみでもあった。卯花月夜を画題に、古典への憧憬と華やかな金地での造形表現をみせる本図は、豪華絢爛な桃山文化を受け継ぎながら、王朝趣味的な優美さと落ち着きを併せ持つ寛永文化の美的感覚をよく伝える作品であろう。



伝俵屋宗達《卯の花図屏風》江戸時代  
紙本金地着色・二曲一隻屏風  
148.0×170.0cm 戸方庵井上コレクション

\*展示室7(山種記念館)のコレクション  
展示「四季のうつろい」(4月17日[土]  
~5月16日[日])で展示する予定です。  
この機会にぜひご覧ください。

## 次回展覧会案内

The 15th Gunma Biennale for Young Artists

# 群馬青年ビエンナーレ 2021

2021年7月17日[土] - 8月22日[日]

会場: 展示室3、4、5

休館日: 毎週月曜日(ただし8月9日、16日は開館)、8月10日(火)

観覧料: 一般 300(240)円、大高生 150(120)円

\* ( ) 内は 20 名以上の団体割引料金

\* 中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者 1 名は無料

**群** 馬青年ビエンナーレは、当館で隔年に開催している、次世代を担う若い世代を対象とした公募展です。15回目となる今回も、ジャンルを問わず、意欲的な作品を全国から広く募集しました。

現代美術の第一線で活躍されているアーティスト、キュレーターの方々による審査をへて、入選・入賞作品を2021年7月17日から展示室でご紹介します。若いアーティストたちの可能性を秘めた作品をぜひご覧ください。

\*応募受付は1月19日(火)で終了しました。



群馬の  
森  
美術館ニュース



群馬県立近代美術館  
THE MUSEUM OF MODERN ART, GUNMA

〒370-1293 群馬県高崎市綿貫町992-1 群馬の森公園内  
TEL 027-346-5560 FAX 027-346-4064

<http://mmag.pref.gunma.jp/>

デザイン: 寺澤事務所・工房  
印刷: 上毎印刷工業株式会社